



東京学芸大学附属高等学校 第17回 公開教育研究大会のご案内

皆様方には、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本校では、第17回公開教育研究大会を以下のとおり開催いたします。是非、多くの教育関係者の皆様にご参加いただき、ご意見、ご助言を賜りたく、ご案内申し上げます。

1. 主題

コンピテンシー・ベースのカリキュラム開発(3) -カリキュラム・マネジメントの前にすべきこと -

改訂が迫る次期学習指導要領において、資質・能力の育成という観点は、高校の授業場面にとどまらず、高大接続改革などにも大きな影響を与えると予想されます。本校では、平成28年度より継続的に資質・能力を育成する授業とそれを評価するためのパフォーマンス課題の開発に注力してまいりました。ただ、その中で“どのような生徒を育てるのか”というゴールイメージの共有が課題となっています。そこで本年度は、資質・能力を育成する授業・評価づくりに加え、本校内でのゴールイメージの創造・共有に取り組んでおります。この取り組みは今後、カリキュラム・マネジメントを充実させるためには、重要な土台になるものと考えております。

2. 日時・内容

平成30年11月23日 (金)

9:00	9:30~9:50	10:00 ~ 10:50	11:05 ~ 11:55	12:45 ~ 14:15	14:30 ~ 16:00
受付	全体会	休 憩	公開授業Ⅰ 休 憩	昼休み 研究協議会	休 憩 シンポジウム

公開授業Ⅰ

教科	科目	授業者	授業タイトル	授業概要
国語	国語総合	浅田 孝紀	文芸評論を比較する	1限は新カリを睨み、同一作品に関する2つの文芸評論を比較し、両者の内容をどう評価するかを考える。2限はこの授業に関し協力者と一緒に「対話型授業検討会」を実施する。参会者の皆様にはまずここまですを参観してほしい。
地理歴史	日本史A	安井 崇	近現代史学習において日本史・世界史の双方を通して身につける概念 (仮)	新指導要領において必修科目歴史総合が設置されることを踏まえ、現行日本史A・世界史Aそれぞれの授業で、共通の概念を核とした授業を実践し、科目間連携によって歴史を学ぶ視点・方法を定着・深化させていくことを目指す。
公民	現代社会	山北俊太郎	イスラーム検定をつくろう(仮)	イスラームについて、地理・歴史・倫理で教えられる断片的な知識を生徒はどのように統合していくのか。ムスリムが給食のハラール対応を要求した静岡県の事例を参考に、実際にムスリムの方にインタビューしながら、イスラームを理解することについて生徒とともに探っていく。
理科	地学基礎	田中 義洋	自然環境の変化をとらえる	これまで、地球の形と大きさ、地球内部の層構造、岩石と鉱物、地層の形成と地質構造、古生物の変遷などを学習している。これまでの学習内容を活用して地球環境の変化を生徒がとらえることを主眼とした授業を行う。
理科	物理	市原光太郎	不確定性原理	不思議の国のトムキンス (G. ガモフ著) に出てくる量子効果が観測される夢の世界を解釈していく過程で、不確定性原理について学ぶ。現代物理学には欠かせない原理を、高校生にどこまで伝えることができるか試みる。
保健体育	体育	福元 康貴	持久走の導入～自分に合った走りを探ろう～	技術要素に乏しく、長時間の苦しみと引き換えに達成感だけを味わわせてくれる長距離走。今ひとつ積極的な取り組み姿勢を得られないが、今回導入時のフォームを中心とした自らの走りを自分なりに実践・検証し、独自の技能で持久走授業に取り組ませたい。

芸 術	工芸 I	神田 春菜	日本美術の文化について理解を深める	日本美術の表現の特徴や様式について理解を深めることを目標とします。屏風や障子、掛け軸などの作品の鑑賞と比較や、国語総合(古典)で学習する「伊勢物語」を主題とした絵巻物を制作と鑑賞を通して学習します。
芸 術	音楽 I	居城 勝彦	歌唱表現を深める	演奏表現を深めるためには楽曲理解が欠かせない。今回は楽曲の成立背景、特に作詞者への理解を通して歌詞に綴られた言葉の意味を考え歌唱表現を深めることを狙い、司書によるブックトークを取り入れる。
芸 術	書道 I	荒井 一浩	古代文字の魅力を探る	楷書および行書の古典から、各自の関心に基づいて取り組む課題を選定し、その書風を捉えて臨書することを目指す。個人で考え、グループで検討し、お互いに学び合う中で新たな発見をするように働きかけを行いたい。
外国語	英語表現 I	光田怜太郎	音声を中心にした英文法定着活動	1つのパラグラフをいくつかの文に分けて班にあたえ、班員一人一人が自分の担当した文を覚え、その順番を英語で議論するという活動(ストリップストーリー)を通して、実際に英語を用いる過程で文法を定着させる活動を行います。

公開授業Ⅱ

教 科	科 目	授業者	授 業 タ イ ト ル	授 業 概 要
国 語	国語総合	浅田 孝紀	文芸評論を比較する	(公開授業 I より継続)
地理歴史	世界史 B	小太刀知佐	近現代史学習において日本史・世界史の双方を通して身につける概念(仮)	新指導要領において必修科目歴史総合が設置されることを踏まえ、現行日本史 A・世界史 A それぞれの授業で、共通の概念を核とした授業を実践し、科目間連携によって歴史を学ぶ視点・方法を定着・深化させていくことを目指す。
数 学	数学 I	大谷 晋 佐藤 亮太	平均値が高いと本当に優れているの?	2つの集団で平均値が異なる時、平均値の高い集団は、もう一方の集団と比べて本当に優れているといえるのだろうか?平均値の違いは、たまたま起こったのではないだろうか?身近な現象で考察していきたい。
理 科	物 理	市原光太郎	不確定性原理	(公開授業 I に同じ)
理 科	化学基礎	成川 和久	金属のイオン化傾向	金属イオンが単体となり析出すると同時に金属の単体が陽イオンになる金属樹の実験を通して金属の水溶液中で陽イオンへのなりやすさ(イオン化傾向)を学習した酸化還元と関連づけて学ぶ。また、金属単体のイオン化傾向を比較する実験も行う。
保健体育	体 育	福元 康貴	持久走の導入～自分に合った走りを探ろう～	(公開授業 I より継続)
芸 術	音楽 I	居城 勝彦	歌唱表現を深める	(公開授業 I より継続)
家庭科	家庭基礎	阿部 睦子	衣生活から社会の持続性を考えよう	SDGsなど持続可能な社会の構築が求められる中で、衣生活を送る上で発信できる事柄を考える。衣服の生産に目を向けた消費生活の重要性など視点を広く持たせることも考えられる。
外国語	コミュニケーション英語 I	加藤 淳	暗唱で終わらせないリテリングの指導	リテリングは生徒にとって難度が高く、多くの場合本文を丸暗記しそれを再生するという形で終わることが多い。本授業ではいくつかのポイントを提示することで、この課題にどう迫ることができているかを検討する。

研究協議会

教 科	研究テーマ	提案者	助言講師	所 属
国 語	「対話型授業検討会」について一新教育課程を見据え、従来型の協議会とは異なる授業検討のあり方を考えるー	浅田 孝紀	渡辺 貴裕	東京学芸大学 教職大学院 教育実践創成講座 准教授
地理歴史	歴史学習における「概念」と「思考力」(仮)	安井 崇 小太刀知佐	大森 淳子	文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官

公民	ムスリム理解を促す地歴公民科の在り方(仮)	山北俊太郎	荒井 正剛	東京学芸大学人文科学講座教授
数学	現在調整中	数学科	未 定	
理科	目指すべき理科の教育課程(仮)	理科	鶴岡 義彦	元千葉大学教育学部理科教育講座教授
芸術(工芸)	詳細未定(音楽・美術・書道合同で行います)	芸術科	未 定	
芸術(音楽)			未 定	
芸術(書道)			未 定	
家庭科	持続可能な社会を見据えた被服学習	阿部 睦子	妹尾 理子	香川大学教育学部家政教育教授
保健体育	持久走の指導と評価 ①授業の振り返り②最終的な持久走の評価(タイム・取り組み姿勢:自主的練習含む・課題探究等の割合)	福元 康貴	山本 浩二	文教大学教育学部准教授
外国語(英語)	音声を中心にした英文法定着活動 暗唱で終わらせないリテリングの指導	光田怜太郎 加藤 淳	金谷 憲	東京学芸大学英語科教育学名譽教授

シンポジウム

<p>テーマ 「BYODの可能性ーカリキュラム・授業づくりの観点からー」</p> <p>発表者 高橋 純先生 東京学芸大学 教育学講座准教授</p> <p>次期学習指導要領の改訂で注目を集める「情報教育の充実」。AIの発展が進む現代においては、情報活用能力の重要性は高まるばかりである。本校でも導入を検討しているBYOD (Bring Your Own Device; 1人1台PC) について、カリキュラムづくり・授業づくりに与える影響や、情報活用能力の育成について、高橋先生をお招きして議論を深めたい。</p>

3. 参加申込

参加ご希望の方は本校HP(<http://www.gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp>)にて前日までにお申し込みください。なお、本校HPでの申し込みは9月上旬より開始予定です。

4. 本校へのアクセス

- 電車** ・東急東横線「学芸大学」駅下車 徒歩15分
・東急田園都市線「三軒茶屋」駅下車 徒歩20分
- バス(東急バス)**
- ・【渋谷駅】南口「野沢龍雲寺循環」、「東京医療センター」行き
 - ・【目黒駅】西口「三軒茶屋」行き
 - ・【三軒茶屋駅】「目黒駅」行き
- ※いずれも「学芸大学附属高校」下車 徒歩1分

5. その他

参加費は無料(資料により実費をいただく場合もあります)。
なお、お弁当を注文された方は、当日、1000円を申し受けます。

問い合わせは、下記までお願い致します。

東京学芸大学附属高等学校
〒154-0002 東京都世田谷区下馬4-1-5
TEL : 03-3421-5151(代) FAX : 03-3421-5152
E-mail : gaku-ken@gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp
担当 : 研究部 齋藤 洋輔

